

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 83号

2014/02/10 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：週末にかけて両市場とも2年半ぶりの高値更新、依然上昇基調

① 最高：5月 LDN 市場£1,859 /3月 NY 市場\$2,922 (2/7) 先週比 **LDN + £20/NY -\$11**
② 最低：5月 LDN 市場£1,831 /3月 NY 市場\$2,877 (2/4) 先週比 **LDN + £13/NY + \$-12**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£28 (傾向↑) / NY 市場\$45 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 261,154 枚(1/31 終了時)⇒267,325 枚 (2/6 終了時) **+6,171 枚**
NY市場 221,526 枚(1/31 終了時) ⇒223,927 枚 (2/6 終了時) **+2,401 枚**

【2月3日(月)】 ニューヨーク、小反発＝ロンドンも反発

ニューヨーク市場の3月きりは小反発し、3ドル(0.1%)高の2914ドルで終了した。世界最大のココア生産国、コートジボワールの供給量が減速する兆候があることに支援された。

ロンドン市場の5月きりは反発。21ポンド(1.1%)高の1852ポンドで引けた。

コートジボワール港における2日までの1週間の入荷量は前年同期の水準を下回った。輸出業者らは、1月27日から2日にかけて約3万トンのココア豆がコートジボワールのアビジャン、サンペドロの主要港に着荷したと推定している。

【2月4日(火)】 両市場とも反落

ニューヨーク市場の3月きりは37ドル(1.3%)安の2877ドルで終了。前日の取引で未決済約定残高が昨年10月以来となる22万6034枚まで膨らんだのを受け、この日は大商いだった。

ロンドン市場の5月きりは21ポンド(1.1%)安の1831ポンドで引けた。

【2月5日(水)】 両市場とも反発

ニューヨーク市場の3月きりは反発し、7ドル(0.2%)高の2884ドルで終了した。4月からのミッドクロップの収穫期を控え、コートジボワールのカカオ豆主要産地の天候に注目が集まっている。ロンドン市場も反発。5月きりは7ポンド(0.4%)高の1838ポンドで引けた。

【2月6日(木)】 両市場とも続伸

ニューヨーク市場の3月きりは、2ドル(0.07%)高の2886ドルで終了。

ロンドン市場の5月きりは、2ポンド高の1840ポンドで引けた。先週付けた2年半ぶりの高値の1855ポンドに近い水準。英国のブローカーは「1855ポンドを突破できれば、新たな上昇局面に入りつつあることを意味する」と述べた。

【2月7日（金）】両市場とも続伸＝2年半ぶり高値

両市場とも続伸。カカオ豆主産国のコートジボワールで2～3月、港への着荷量が前年の半分程度まで急減するとの見通しから、2年半ぶりの高値を付けた。

ロンドン市場の5月きりは、19ポンド（1%）高の**1859ポンド**で終了。一時、2番ぎりとしては2011年9月以来の高値となる1864ポンドまで上昇した。ニューヨーク市場の3月きりは、36ドル（1.2%）高の**2922ドル**で終了。一時は2年半ぶりの高値となる2937ドルを付けた。

2、コートジボワール：2～3月のカカオ豆着荷量、前年の半分に(2/8 ロイター)

コートジボワールのカカオ豆輸出業者によると、2月と3月の同国港湾のカカオ豆着荷量は、前年同期の半年前後に落ち込む見通しである。

2013～14年度の始まりである昨年10月までの天候不順が生産に影響する可能性が懸念されていたが、これまでの港湾着荷量は前年度を大幅に上回るペースで伸びている。アビジャン港とサンペドロ港の着荷量は、2日時点で推計104万7000トンに達した。前年同期は87万9000トンだった。

ただ週間合計は3万トンと、前年同期を下回った。輸出業者らはロイター通信に対し、こうした減少傾向が向こう数週間続くとの見通しを示した。

アビジャンの輸出業者は「現状が続いた場合、2月と3月の着荷量は8万～10万トンとなるだろう」と語り、「今週の予想は2万トンだが、来週の予想は1万トン。われわれの情報によると、着荷量はかなり急速に落ち込んでいる」と付け加えた。

また、サンペドロの輸出業者の幹部は「過去数日間の着荷量はあまり好調ではない。農場には収穫可能なものが実質的に残っていない」とコメントした。

今週同国西部の主産地を訪れたロイター通信の記者は、仲介人に売り渡す豆が手元にある農家がほとんどないことを確認している。メグイヤスブレ、サンペドロの農家は、メインクropp期（昨年10月～今年3月）の収穫を先月末までにほぼ完了したと語った。

3、インドネシア：カカオ豆の収穫高が過去10年で最も低下する見込み(2/7 ブルームバーグ)

カカオ豆の収穫高で世界第3位となるインドネシアのカカオ豆生産高は、雨の影響によりおそらく過去10年で最も低くなるだろう。降雨よりカカオ豆の開花にダメージがあり、収穫が遅れ、世界的なカカオ豆不足の中で、チョコレート原料の供給が抑制される懸念がある。

インドネシアのカカオ協会は、今年のカカオ豆の生産高は、2013年の45万トンから40万トンへ減少すると見込んでいる。この数字は2004年以降で最低の収穫数量だ。協会の幹部は7日のインタビューで、2月～3月でカカオ豆の主産地である Sulawesi に豪雨が集中することを述べている。

ニューヨークのカカオ相場は世界的な需要が供給を上回ったことを受け、2011年9月以来の上昇局面となった。これはチョコレート菓子の記録的な売れ行き好調に起因している。

「カカオの花は成長しているが、雨によってその多くは木から落ちてしまった。」と同幹部はジャカルタから電話で述べており、また収穫期は通常4月から5月であるところ今シーズンは6月まで遅れるだろうと予測している。彼はまた「もし雨が降り続いたら、カカオポッド（カカオの実）につく穿孔虫や菌類のような害虫が蔓延し、それがカカオ豆の収穫高や品質を低下させるだろう。」という。

ICE(インターコンチネンタル取引所)におけるニューヨークのカカオ豆の先物相場は今年、8.4%上昇した。一方で、S&P GSCI 商品指標 (S&P GSCI コモディティ・インデックス) は 0.3%下落し、また MSCI 指標 (世界的な株価指数の名称) は 3.9%下落した。

カカオ先物市場の最高値は\$2,937/トンへと上昇し、2011年9月8日以来の最高値を更新した。昨年の S&P GSCI 商品指標のカカオ豆の相場は 21%上昇し、これは S&P GSCI 商品市場において天然ガスに次ぐ上昇の大きさとなっていた。

4、アジア：バターレシオはロンドン先物市場が高騰しても堅調に推移(2/7 ロイター)

ココアバターの価格はロンドン市場とニューヨーク市場のカカオ豆の先物価格にレシオを掛けることで決まる。ディーラーは「アジアにおけるココアバターレシオは今週、チョコレートメーカーが直近で出荷されたカカオ製品に飛びついたことを受けて小幅上昇した。一方で、飲料業界からの需要はカカオパウダーの価格を落ち着かせた。」という。

アジアの 2013 年の第 4 四半期における堅調な圧砕高は、実際の商品市場において気持ちの面でも押し上げた。今年前半のココアバターレシオは先月 1 月の **2.38 から 2.40** へと固定された。

カカオ豆は圧砕されると、チョコレートに口どけを与えるココアバターとケーキ、ビスケット、飲料に使用されるココアパウダーへと変化する。シンガポールのディーラーは「一部の顧客は、新年が明けると買いに走る。しかし人々はすでにバレンタインデー需要に向けてすでにカカオ製品を買ってしまったかもしれない。我々はココアパウダーを少し買いに動いたが、しかしそのペースは非常に遅い。」という。ココアパウダー価格は、ココアバターレシオの上昇を受けて、先月 1 月に\$1,900~\$2200/トンであったのに対し **\$2,000~\$2,200/トン**と留まっている。このように、ココアバターとココアパウダーの両市場は通常反対方向に動く。

ディーラーは「アジアにおけるカカオ豆の圧砕高は 2013 年の第 4 四半期は 17 万 684 トンとなり、昨年の 15 万 5237 トンから 10%上昇した。マレーシアにおける圧砕高 9%の減少はインドネシアの圧砕高上昇によって相殺された。」という。

インドネシアのディーラーは「我々は一時的な購入者がいるとみている。我々は 2 月積みのココアバターの販売取引が終了した。このことはバレンタインデーと関連している。しかし多くの人々は価格が下がるのを待っている。」という。

ロンドン市場のカカオ豆先物の 3 月きりは先週、消費の伸びが生産のペースを上回ることを期待して £1,840/トンから 2 ポイント上昇し 2011/2012 期の最も高い £1,855/トン付近へと迫った。

5、COCOBOD (ガーナのカカオ豆監督機関)、カカオ豆密輸防止を誓う(2/7 GNA)

COCOBOD の新長官である Stephen Opuni 博士はカカオ豆の隣国への密輸を阻止するために何でもすること誓った。彼は違法な活動に携わる者は更生し、法律と向き合うべきであると述べた。

彼は、「COCOBOD は農家の作物収量を伸ばすために、化学薬品や他の農産品の隣国への流出に対して見て見ぬふりはしないだろう。」という。この度、ガーナの Asante-Akim South District (ガーナ南部の地区) の Juaso (その主要都市) での農民集会を開催した Opuni 博士は農民に勇気をもって違反者につ

いて報告をすることを促した。

彼は、「ガーナ経済に多大な貢献をするカカオ産業を保護する責任を担うことは、すべての農家にとって重要である。また現在は資格を持った販売者（License Buying Companies=LBCs）を通してのみ取引がなされている農薬や殺虫剤についても、隣国への流出を防ぐ。」という。そして、カカオ豆の病気や害虫を制御するプログラム(the Cocoa Disease and Pest Control program)を強化していく決意を述べた。重量測定の微調整によってカカオ豆の買い付け業者に騙されないかという農民の不安を受けて、Opuni 博士は LBCs と共に犯罪と闘うことを約束した。彼によると COCOBOD はカカオの生産組合にソーラーライトを提供し、またカカオ豆の農地へ行くための道を改善させるために交通省とともに連携していくという。

また、農家に対して子供に教育を受けさせるために COCOBOD の奨学金を利用することを促している。地区行政長官の De-graft 氏は、カカオ豆の産地へ向かう状態の悪い道路を問題視しており、これらを改善させるべきであることを述べた。Ashanti 地区の農民の代表である S.Y.Akuoko 氏は農民が買えるように殺虫剤の価格を下げることを訴えている。

6、ガーナ：オーガニックカカオ豆の生産を伸ばす(2/5 Graphic Online)

ガーナにおけるオーガニックカカオ豆の生産向上のための 4 日間のワークショップと『剪定、クリーニングのこぎり（ハサミ）*英語では pruning and clearing saw』の発表がガーナ東部地区にある Bunso Cocoa 大学にて開催された。

この「pruning and clearing saw」とはカカオを農業ビジネスとして生産性を高めていく為の、農家がカカオの木を剪定し、農園の手入れを欠かさず良い状態に保つために新しく開発された農具である。

ワークショップはオーガニックカカオ豆を買い付ける会社である Yayra Glover 社(YGL)とガーナのカカオ委員会と共同して働くスイスの政府機関である Swiss Secretariat for Economic Affair(SCECO)によって組織されており、その他に農家からの人材も含めた 22 人が参加している。

ワークショップ開催にあたって、COCOBOD の研究開発部の上級管理者の Owusu-Menu 氏は「効果的な選定やしっかりとした農園管理の実行によって、ガーナでのカカオの生産性は大きく改善することが可能であり、**1ha あたり 2 トンのカカオ豆**の収量も期待できる」という。Owusu-Menu 氏は参加者に対して、自らが訓練を受けるのみならず、トレーナーとしてワークショップに参加していない同僚に参加を促すように働きかけるべきであると助言した。

またスイス政府がこのガーナ産オーガニックカカオの拡大プロジェクトを支援してくれていることに対して感謝を表した。

COCOBOD の the Cocoa Swollen Shoots Virus Disease—Control Unit 部門（ガーナ産カカオにとって最大の危険な病害である Swollen Shoots Virus Disease 防止するための管理機関）代表である Francis Oppong はこれまでいつも課題であったこのウィルス病害への対策が新しく開発された農業器具により防止できることを期待していると述べた。



《左の写真》

Cocoa Swollen Shoots Virus Disease に感染した枝の状態。感染してからの状況は様々なケースがあるが、感染した場合、1年以内に収穫数量が25%減少、2年以内に50%減少し、3~4年の間にカカオの木自体が死んでしまう。1936年に初めてガーナで感染が発見され、その後現在ではトーゴ、ナイジェリア等でも感染事例がある。

YGLの最高責任者である Yayra Glover 氏は「食物を基礎とした健康問題の結果として、食の安全やカカオ産業についての問題が生じてきた。主に先進国にいるチョコレート製品を購入する顧客は、その製品の原料の産地や取引条件について気にするようになってきている。」という。

また「こういった世界の動向により、世界第2位の生産量を誇るガーナとしても世界中の買い手に対してオーガニック認証のカカオ豆やその他の認証付きカカオ豆の生産を供給できるようにすることがCOCOBODと我々の様なニッチで小さいLBCであるYGLが共に協業している理由である」という。

Glover氏はガーナ産のオーガニックカカオ豆の生産は、国内のカカオ豆の生産地区の雇用創出と過疎化の防止となり、地方都市にとっての追加補足的な産業の手段となりうることを説明している。

彼は「2012/2013期でガーナは200トンのオーガニックカカオ豆を輸出し、2013/2014期においては12月現在で300トンをすでに輸出しており、2014年9月までにはさらに300トンのオーガニックカカオ豆を輸出するだろう。さらに pruning and clearing saw の導入によって2014/2015期の生産量はさらに大きくなる見込みであり、800トンのオーガニックカカオ豆を輸出すると見込んでいる。」という。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp